

福井城址活用に関する提言（案）について

1 概 要

- ・令和 2 年 9 月に「福井城址活用検討懇話会」を設置し、今後の福井城址の活用方策を議論
- ・地域住民をはじめ県内大学等の学生や各種団体などと意見交換を実施した上でとりまとめた懇話会「提言」の骨子（案）を基に、懇話会委員による議論を深め、懇話会の「提言」（案）をとりまとめ

2 今後のスケジュール（案）

- ・来月に最終の懇話会を開催し、「提言」をとりまとめ

〔参 考〕 福井城址活用検討懇話会委員名簿

	氏名	所属
座長	西村 幸夫	國學院大學教授、東京大学名誉教授
委員	朝倉 由希	公立小松大学国際文化交流学部准教授
	伊藤 香織	東京理科大学理工学部教授
	景山 直恵	アーチザン&パートナーズ代表
	黒川 結加	福井県立大学経済学部 3 年
	多米 淑人	福井工業大学工学部教授、FUT 福井城郭研究所副所長
	角鹿 尚計	福井県立大学客員教授
	中村 総一郎	福井大学学術研究院工学研究科修士 1 年
	萩原 さちこ	公益財団法人日本城郭協会理事
	前川 小百合	有限会社ビアンモア常務取締役、美めぐりふくい代表

福井城址活用検討懇話会「提言書」（案） 概要

1 提言の主旨

■ 「県都デザイン戦略」等との関係

- ・「県都デザイン戦略」においては、「歴史を受け継ぎ、新たな文化を創造する県都」を目指す姿とし、「福井城址を中心とした、歴史を象徴し、人が集まる空間の形成」を図るという方向性のもと、山里口御門の復元、中央公園の再整備、市道県庁線や堀端の城址周辺道路の整備などを実施した結果、中央公園でのイベント開催やキッチンカーの出店などの活用が活発化
- ・戦略に掲げられた城址周辺における短期～中期の整備は概ね完了したが、福井城址の目指すべき長期的な目標の具体化を進めるため、「福井城址活用検討懇話会」を設置
- ・懇話会の提言は、「県都デザイン戦略」の方向性を受け継ぎ、「県都にぎわい創生協議会」における議論と整合を図り、まちなかにおける「福井城址」の位置付けや求められる機能などについて、「県都のグランドデザイン」に反映

■ 福井城址の価値と活用の考え方

- ・福井城本丸は、1606年の築城以来、石垣や堀はほぼ形を変えずに現存しており、往時の面影を偲ぶことができる歴史的価値の高いもの
- ・周辺には養浩館庭園や復元された舎人門、百間堀の遺構などが点在しており、越前福井藩の政治の中心であった福井城の歴史が垣間見える
- ・このように、福井城址は極めて歴史的価値が高く、県民の誇り、そして「県都のシンボル」となり得る大切な歴史資産
- ・活用にあたっては、県民の愛着と誇りを育て、「県民の城」として意識されることが大切であり、後世に受け継いでいきたくなるよう、磨き上げていくことが必要

■ 目指すべき姿と目標年次

- ・北陸新幹線福井・敦賀開業に向けて短期に対応すべき活用方策と、「福井県長期ビジョン」の目標年次である2040年に向け中長期的に対応すべき活用方策を提案

◆目指すべき姿

- (1) 歴史に触れ、学びを深める空間
- (2) 人が集う、開かれた憩いの空間

◆目標年次

- | | | |
|----|-------|------------------|
| 短期 | 2024年 | 北陸新幹線 福井・敦賀開業 |
| 中期 | 2030年 | |
| 長期 | 2040年 | 「福井県長期ビジョン」の目標年次 |

2 提言の内容（2040年までの具体的な活用方策）

(1) 歴史に触れ、学びを深める空間

福井城址に現存する石垣や堀は、往時の姿を偲ぶことができる貴重な歴史資産であり、「県都のシンボル」として、県民に愛され、誇りとして後世に受け継いでいきたくなるよう、磨き上げていくことが必要

① 石垣・堀の保全と利活用 【短期～】

築城以来、形を変えずに現存する歴史的価値の高い石垣や堀は、その形を損なうことなく適切に保全した上で、広く知ってもらい、身近に感じてもらうなど愛着を高める取組みを実施

- ・石垣・堀の適切な保全
- ・石垣等のライトアップやプロジェクションマッピングの実施
- ・お堀での遊覧船運航などのイベント開催



石垣のライトアップ（R3春のイベント）

② 城郭施設の復元

福井城址の本質的価値である現存する石垣と堀を適切に保全した上で、県民の気運の高まりをもとに、史料・文献調査を十分に行い、史実に基づいた復元可能な城郭施設の復元を検討

- ・坤櫓や城址西側土塀の復元【短期～中期】
- ・巽櫓等の復元を検討【中期～長期】



福井城坤櫓（福井温故帖「越葵文庫」蔵）

③ 福井城址の歴史を知る・学ぶ機会の提供 【短期～】

福井城の理解を深め、誇るべきものとして、県民が福井城について語れるようにすることが重要であり、歴史を知ってもらい、学んでもらう取組みを実施

- ・VRアプリの機能拡充、まち歩きの開催など学習機会の創出
- ・SNSやホームページなどによる情報発信の充実
- ・城址周辺の歩行者空間の拡充や案内表示の充実



VRアプリツアー

(2) 人が集う、開かれた憩いの空間

本丸の外側に位置する二の丸、三の丸エリアもかつては福井城の城郭内であったことを認識し、城址の遺構を活かしオープンスペースとして整備された中央公園なども含め、福井城址の活用を考えることが重要であり、身近に感じる開かれた場所に変えていくことが必要

① 人が集い、文化を創造する環境づくり 【短期～中期】

商店街、オフィス街、住宅街が接続する場所である城址および城址周辺に、誰もが集い、楽しみ、文化を創造することのできる取組みを実施

- ・城址の風情を感じられるカフェなどの設置
- ・フリーマーケットやコンサートなどのイベント開催
- ・アートプロジェクトなど文化的活動の実施
- ・活用方策を議論・具体化できる場づくり

② 緑豊かで開かれた憩いの空間づくり 【短期】

緑や日陰を充実させ、訪れた人が気軽に憩えるための取組みを実施

- ・緑化や樹木などの日陰で休憩できるスペース設置などの環境整備



中央公園の利活用のイメージ



ワンパークフェスティバル（中央公園）

3 将来的な活用の方向性

(1) 将来的な活用の考え方

- ・本丸内の建物は、耐用年数（50年）や福井県公共施設等総合管理計画から見て、今後相当の期間、利用可能な状況
- ・県庁舎等移転後の活用策については、2040年を目標年次とする活用方策に位置付けるのではなく、移転が現実的な課題となった時期における社会情勢のほか、城址周辺の土地利用形態や建物の状況などを十分に考慮して決めるべきもの
- ・福井城址は、城の歴史や価値など無形の資産を含めて活用方策を考えるべき

(2) 将来的な活用の方向性

- ・概ね2040年以降を想定し、県庁舎移転後の跡地活用の検討の際の参考として提案

〔将来の方向性〕

- ・福井城址は、歴史的遺産としての価値を一層高め、歴史を偲び、誇りを感じられるシンボリックなエリアとして、歴史と日常の生活が結びついた開かれた憩いの空間を目指すことが望ましい
- ・「多目的な利用を想定したオープンスペース」としての活用が大きな方向性



(将来) 県庁舎等移転後の活用イメージの一例